

大ニ日本

版 コ ス ネ シ

道新 114
高新 177
新報 27
中口新 40

初春表情 - 札幌 - 12月 (本編トワヘ追加)
本編同V

No. 364

36. 1. 5

新春を告ぐ 暖玉の舞 - 広島 - 12月 (本編トワヘ追加)

日本の群像

一、変貌する農村

明治維新以来、文明開花のかけに停滞と混迷をつづけてきた農村も、所得倍増計画の初年を迎えて大きく変貌しようとしています。池田内閣の経済政策を地地道道としていく豊田市は、すでに六十三の工場を誘致して別の名を「東洋のデトロイト」と呼ばれています。周辺農家も大きく変わり、兼業農家も著しくふえてきました。四日市もまた、石油のコンビナートとして工業都市に生まれ変わろうとしています。この周辺農家では、自家用車はもとより、単車まで買入れて、農業も立派な企業として近代化しているのです。

一方、工場の誘致すら望めない辺地では、狭い土地を共同化で克服しようと、新しい村造りが各地に見られます。愛媛県北宇和島郡は、わが最初の共同化法人をつくりました。農は国の基であるという農本主義を自分たちの手で修正した農民は、一般経済の好況をバックに、ようやく金もおうけに立ちあがるようとしているのです。長い間、砂に埋れた貝のように、浮きあがることを忘れていた農民も、新しい資本の進出とあいまって、古い農業から企業としての農業へ脱皮しようとしています。

こんびら船々追風に帆をかけてシユラシユシユシユの歌で名高い四国の金刀比羅宮。その昔、瀬戸の海が海上交通の中心となって栄えた頃から海の神様として信仰を集めてきました。拜殿、絵馬殿、宝物殿からなる社殿はすべて権現造り、特に絵馬殿の中には数千に及ぶ絵馬はほとんど船が中心、中には船の模型もみられる様にいかに海の神様として信仰されているか、うかがうことが出来ます。このこんびら様をかかえる琴平市は、人口約二万、徳川時代は御朱印地として治外法権の地であり、門前町として栄えてきました。こんびら様へ通じる道には全国から集まる参詣人の宿となる旅館が四〇軒から立ち並び又参詣人目当てのお土産物屋が百二、三十軒も軒をつらねています。この売上げは年間二千万円にもあがり、文字通りこの町の経済を支えています。そして年間四百万の参詣人がこのこんびら様を訪れ、途方もない石段をめぐって、地元ではケーブル架設の火の手があがったり、消えたり、良き昔をめぐってこのこんびら様もやがては時代の流れに乗ることでしょう。

神奈川 静岡 愛知 三重 愛媛 重知岡川

一、こんびら様繁盛記
一、香川 新春祝賀会
若手

一、五男の王座を
関ヶ原の戦い
東平

714月